



橋に

大阪の歴史と
文化を見る



「大阪」の呼称：大阪の古い呼称に「なにわ」がある。難波、浪速、浪華、浪花とさまざまな文字があてられるが、日本書紀をはじめ、古事記、風土記など古代の書物では「難波」という文字が最も多く用いられており、これが江戸時代になると「浪華」、「浪花」が一般的に使われるようになる。一方「おおさか」が文献に登場するのは室町時代以降と考えられ、「さか」の文字には「坂」が長く用いられてきた。これが現在の「阪」になるのは明治になってからのことである。

このマップでは、歴史的な意味をもたせる場合はその時代に合った呼称を用いることにしている。



左から玉江橋、太左衛門橋、今橋、京橋
（「浪花百景」より、大阪城天守閣蔵）

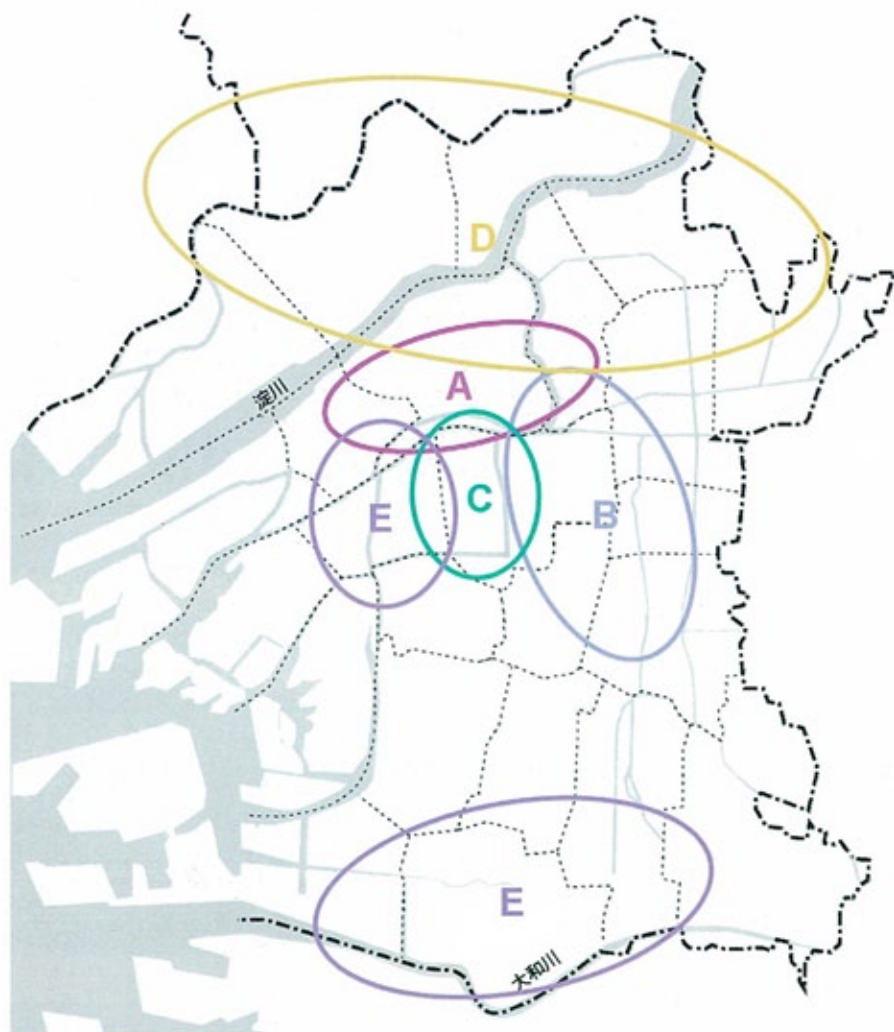
大阪の橋

水の都大阪には古来多くの橋が架けられ、《なにわ八百八橋》とうたわれるほどですが、大阪の橋の歴史をひもとくと、今からおよそ 1500 年前の仁徳天皇 14 年に「猪甘津に橋を架す」「號けて小橋と白ふ」と日本書紀に記されています（現在の生野区には猪飼野、小橋という地名が残っている）。

その後四天王寺の建立、難波宮の造営、大坂築城などを契機に大阪のまちづくりが進められましたが、特に天下の台所として栄えた江戸時代には多くの堀割（運河）が開削されて、夥しい数の橋が架けられました。この頃になると橋は日々の暮らしに欠くことのできない施設として、人びとに使われ、愛され、親しまれていったのです。大阪を舞台にした浄瑠璃や大坂の名所を描いた錦絵に頻りに橋が登場するのも当然と言えるでしょう。また、河川の埋め立てなどによってなくなってしまった橋の名前が、駅名や地名として今もたくさん使われていることは、大阪の人びとにとって橋が特別の意味を持つものであることを示していると言えます。

大阪市では、大阪の代名詞とも言える橋を通じて、多くの人びとに大阪の歴史、大阪の文化への理解を深めていただくことを願って、「橋梁顕彰碑」の設置を進めています。

このガイドマップは、大阪市民はもとより、大阪市内で働き、学んでいる方々、そして仕事や観光で大阪に来られた方々にも、気軽に顕彰碑を見ていただけるようにと作成したものです。一度ガイドマップを持って町へ出てみませんか。今まで知らなかった大阪が発見できるかもしれません。



- | | |
|----------------|----------------|
| 大川・中之島を中心に(A) | 淀川・神崎川を中心に(D) |
| 寝屋川・平野川を中心に(B) | 木津川付近と大阪市西部(E) |
| 旧船場・島之内を中心に(C) | 鉄道駅、バス停 |

地図上の位置表示 ● は架橋地点を表しています。顕彰碑の設置場所は本文をご覧ください。
表紙：明治時代の心斎橋（二代目長谷川貞信画「心斎橋真写之図」、神戸市立博物館蔵）



今橋の顕彰碑



安治川橋の顕彰碑

浪華の三大橋（天満橋・天神橋・難波橋）

この辺りは古代には難波津と呼ばれ、遣唐使船などが発着する日本の表玄関であった。7世紀に難波宮が置かれ上町台地上に発達した大阪のまちは、豊臣時代以降徐々に西へ開発され、まちの北を流れる大川には、大阪から西国へ通じるルートとして古くから橋が架けられていたと考えられている。江戸時代になると市街地は本格的に北へと広がり、大川を渡るこの3つの橋は特に重要な橋として公儀橋に指定され、幕府の直轄管理となった。長さはどれも200m以上、幅も7m前後と、当時としては最大級の規模であったことから「浪華の三大橋」と称され、大阪を代表的する橋として人びとに親しまれた。

長大橋の多くなった現在でも、広々とした水面と岸辺の豊かな緑に映える三大橋の姿は名橋の名に恥じない風格がある。昭和10年に架けられた天満橋は同45年に上層部分が増えられた2層の鋼桁橋、天神橋は昭和9年完成のスケールの大きな鋼アーチ橋、そして難波橋は大正4年完成当時の中央のコンクリート・アーチ橋と昭和50年に架け換えられた両側の鋼桁橋（形は架け替え前のアーチ形を継承）と、それぞれの個性美を見せてくれている。

交通 京阪、地下鉄天満橋駅下車（天満橋）、北浜駅下車（天神橋、難波橋）

お勧めコース 天満橋の駅から地上に出て2階建てになった橋を渡る。下流側（西）を望むと天神橋が美しいアーチを描いているのが見える。北詰東側の交番の横から公園に入ると、川を背にして明治時代の天満橋の橋名額（右の写真「鉄橋になった天満橋」に見える）が据えられている。川岸へ降りて桜並木を下流（西）の方へ歩くこと10分足らずで天神橋北詰に着く（西側に明治時代の橋名額が置かれている）。橋を南へ渡って橋詰西側の碑を見たあと再び橋へ戻り、中央にある階段を中之島公園へ降りる。グラウンドの向こうに見える高層道路の下をくぐり、太鼓橋になった「ばらその橋」の上に立つと19世紀のヨーロッパを思わせるクラシックな難波橋が目に入る。難波橋の中央に作られた見晴らしのいいバルコニーには、陶板画をはめこんだ顕彰碑がある。なお天満、天神両橋の橋名額は天満宮境内にある池のほとりにも保管されている。



旧天神橋の橋名額



難波橋のバルコニー



木橋のころの天満橋



鉄橋になった天満橋



現在の天神橋



木橋のころの難波橋



鉄橋になった難波橋



現在の天満橋

木橋のころの天神橋



鉄橋になった天神橋



現在の難波橋



淀屋橋

最初の橋は、江戸時代の豪商 淀屋が私財を投じて架けたと伝えられる。現在の橋は昭和10年に御堂筋の建設に伴い架けられたコンクリート・アーチ橋。中之島を挟んで北側にある大江橋と同じ石造りの重厚な意匠は、土木構造物には珍しく懸

賞募集が行われ、その最優秀作品をもとに設計されたもの。

橋の南詰西側には宮本又次氏の碑文を刻んだ「淀屋の碑」が、北詰の日本銀行正面には「淀屋橋・大江橋 欄干復元」の碑が据えられている。

交通 京阪、地下鉄淀屋橋駅下車すぐ

せんだんのきばし 栴檀木橋

橋筋に大きな栴檀の木が植わっていたところからこの名がついたとも言われる。この言い伝えにちなんで南詰東側の歩道上に栴檀の木が植えられ、その下に顕彰碑と過去2代の橋の親柱（橋の4隅に立てられる大きな柱）が置かれている。

交通 京阪、地下鉄淀屋橋駅下車すぐ

お勧めコース 淀屋橋北詰から、大阪市役所、府立図書館を左に見て遊歩道を歩くと栴檀木橋北詰に出る。足に自信のある方には栴檀木橋からさらに東へ、難波橋を経て今橋、高麗橋へと巡ることを勧める。途中、東洋陶磁美術館、バラの小径、バラ園など見るところも多い。

ふないりばし 船入橋

船入橋は、近松門左衛門の「心中天の網島」の「名残の橋づくし」によりこまれたことで知られる。この名を持つ橋はほかにもあったが、この橋は鍋島藩蔵屋敷に入る入堀に架けられていたもの。顕彰碑は大阪高等裁判所の正面に据えられている。

交通 京阪、地下鉄淀屋橋駅下車、栴檀木橋から図書館の前を通過して水晶橋を渡ると、すぐ右側

しじみばし 蜷橋

堂島の北を流れていた旧曾根崎川は蜷川とも呼ばれ、いくつかの橋が架かっていた。蜷橋は大江橋の通り（現在の御堂筋）にあったが、明治42年の大火で消失した。顕彰碑はかつて御堂筋に建てられていたが、現在は橋名のみが御堂筋の西側、滋賀銀行大阪支店の角に彫りこまれており、顕彰碑はその一つ北の通りを西へ300m行った植込みの中に据えられている。

交通 JR北新地駅、阪神梅田駅、地下鉄梅田駅、東梅田駅、西梅田駅下車



蜷川、蜷橋の顕彰碑

わたなべばし ひごばし 渡辺橋・肥後橋

渡辺橋の名は、平安中期以降「渡辺の津」と呼ばれていた地名（現在の天満橋付近）に由来し、大阪にゆかりの深い名前である。肥後橋は江戸時代、ここに肥後・熊本藩の蔵屋敷があったことに由来すると言われる。同じ構造形式、外観意匠を持つ現在の橋は、昭和41年に高潮対策と地下鉄建設に併せて架け換えられたものである。高欄（欄干）は、当時としては斬新なデザインが取り入れられ関係者の間で話題になった。平成5年に高欄の改修が行われたが、当時の面影を見ることができる。両橋の顕彰碑は渡辺橋の南詰め東側に設置されている。

交通 地下鉄肥後橋駅下車すぐ



現代感覚あふれる肥後橋の高欄

たまえばし 玉江橋

元禄初期に堀江橋の名で架けられていたが、ほかに同名の橋が架けられたため玉江橋に改名された。江戸時代の錦絵を見ると、反りの大きい橋で正面に四天王寺の塔が描かれており、見晴らしのいい場所であったようである。顕彰碑は北詰西側に据えられている。

交通 阪神福島駅、JR新福島駅下車、南へ300m

めおとばし たるやばし 夫婦橋・樽屋橋

豊臣時代から江戸時代にかけて開削された天満堀川には江戸時代すでに多くの橋が架けられていた。しかしこの川も昭和47年までに埋め立てられ、2つの橋も姿を消した。天神橋筋に架かっていた夫婦橋跡には由来などを記した顕彰碑が設置され、昭和4年に架設された旧橋の高欄と照明灯が復元されている。また樽屋橋の架かっていたところには撤去当時の親柱が残っている。

交通 地下鉄扇町駅下車、東へすぐ、（夫婦橋）、地下鉄南森町駅下車、南へ300m（樽屋橋）

かわさきばし 川崎橋

古くから「川崎の渡し」が置かれ、明治のはじめに有料の橋が架かっていた一時期を除けば、橋のなかったこの地に、昭和50年自転車・歩行者専用橋が完成した。広い水面と豊かな緑からなる景勝の地であることから、構造形式の選定や形状の決定にあたっては特に景観面からの検討が重視され、繊細優美な斜張橋が採用された。顕彰碑は北詰のスロープを降りたところにある。

交通 京阪、地下鉄天満橋駅下車、東へ500m又はJR大阪城北詰駅下車、西へ500m



美しい風景にマッチする川崎橋

